

丘珠空港利活用検討関係者会議

第3回 開催報告

1. 議事概要

開催日時：平成 31 年 3 月 11 日（水）14:30～16:30

開催場所：かでの 2・7 10 階 1070 会議室

（札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 道民活動センタービル）

参加者数：委員 8 名（1 名欠席）、札幌市 5 名（事務局）、
北海道（オブザーバー）1 名、
道銀地域総合研究所（事務局）4 名、
報道関係者 3 名、傍聴者 7 名
計 28 名



1. 開会

(1) 挨拶

（札幌市より挨拶）

（資料確認）

2. 議事

(1) 追加調査に関する経過報告について

●事務局からの報告

（札幌市より資料 1-1 「【経過報告資料】PBB（搭乗橋）及びエプロンルーフの比較検討」、資料 1-2 「【経過報告資料】航空機騒音の説明資料（案）」、資料 1-3 「【経過報告資料】セカンダリー空港としての機能検討」、資料 1-4 「【経過報告資料】情報提供・意見収集手法の比較検討」を説明）

○委員からの意見

＜PBB（搭乗橋）及びエプロンルーフの比較検討について＞

- ・PBB は非常に有効な手立てとっており、関係機関と協議して利活用を進められればと思う。
- ・エプロンルーフは、まず雪の対応が心配である。また、ステップ車やリフトの対応が必要だったり非常に傷みが早いように感じるため、小型機も含め対応できる PBB が望ましいと思う。

- ・既存施設の整備改修というのも必要だと思っており、他の空港と比べると、雨と雪の日は大変な思いをするので、費用は結構掛かると思うが、出来るならこういうものからまず整備されるのが良いと思っている。

<航空機騒音の説明資料（案）について>

- ・ L_{den} や L_{max} という色々な数値が出てきたが、こういう基準がありこの数値が示されるというのが良くわかり、大変いい資料である。地域の方も、なぜこういう数値が出てきているのか、なぜクリアしているのかということが分かると思う。
- ・平成 30 年度の騒音測定結果で最大値の機種が記載されているが、どんな機種なのかがわかるかと思う。
- ・わかり易い資料であり、この資料をもう少し市民に知らしめると、もっと騒音問題もクリアできると考えている。

<セカンダリー空港としての機能検討について>

- ・海外の例も見ていると、国内にはとらわれない見方も出来るので非常に参考になる。特にイギリスのほうは非常に良いのかなと思っている。丘珠空港もまだまだ地の利を生かしながら有効活用できるという認識を持っている。
- ・丘珠空港を新千歳空港のセカンダリーとして考えるのであれば、当然新千歳空港の今後の発展にどう関わっていくか、どう一緒に考えていくかという事も必要だと思う。
- ・丘珠空港と新千歳空港は、小牧空港とセントレアの関係に似ているため、役割分担が参考になると思う。セントレアは国際線・大型機・幹線、小牧空港は国内線のオリジナルという使い分けであり、参考になると思う。
- ・小牧空港の丘珠空港と違うところは小牧発の需要が非常に多いことである。丘珠空港の場合、丘珠着の方が多くなると思うので、その点は少し違った見方で利活用が必要だと思う。
- ・現在丘珠空港と新千歳空港の間に直接結ぶ交通手段がないが、その辺もクリアしていかなければ難しいと思う。
- ・セカンダリー活用の考え方というのは、新千歳空港がどう発展するかに関わってくる話であり、今後 5 年ぐらいのタームとそれから先 10 年、15 年で多分違ってくるようなことをきちんと想定して考えなければいけない。
- ・滑走路を延長するかどうかみたいなこともやはり入れないと、本来的なセカンダ

リーが発揮できない側面があり得る。逆に言うと、活用の時間的なイメージに即して現実に丘珠空港をどう施設整備をするか、拡張、利活用を考えるかということリンクすべきである。

- ・除雪問題・アクセス・運用時間等、現在の価値を高めていくために今の施設で出来る事というのは今後の大きな方針、セカンダリー空港としての機能を決めるとか新千歳空港との連携を考えるとといった将来的な機能を検討する際にも有効に作用するということもある。

<情報提供・意見収集手法の比較検討について>

- ・インフォメーションコーナー・オープンハウス・空港見学会等、このあたりの意見聴取をもっと掘り進めたいということについては、適切だと思う。
- ・今後は広く全市民に対してのPRが必要になってくるのではないかという認識を持っている。
- ・市民から直接意見を聞くこと以外に、例えば企業の方・商工団体・商工関係の方・地元の観光業の方、旅行会社・道外の方の意見というものも聞く機会があればいいと思う。
- ・多くの市民に広く意見を求めるということになると、インフォメーションコーナー、オープンハウス、空港見学会の中でどれかを選ぶのが良いと思う。声の大きい人の意見はみんなの意見ではなく、サイレントマジョリティの声は非常に大切になると思う。
- ・限られた時間の中で、どう効率的に広く意見を聞くかというような観点も必要なので、時間を切った中で出来る最大限の努力をしていただきたい。できればまさに意見表明のハードルを低くして、比較的関心の少ない方にも意見を聞くという手法が良いと思う。

<利活用の在り方等について>

- ・今年度の住民説明会では、現状については概ね賛成、ただし拡張していくことに関しては足踏みせずに行けという人と、騒音の問題が気になるという人が二分化されていた気がする。その一方で2030年の札幌オリンピックの可能性、インバウンドの需要が爆発的に伸びていて日本の経済を支えていることも含めて、タイミングを逸せず地域発展をしっかりと、札幌それから北海道のものをつかんでいきたいと思いますという意見もこの会議の皆さんの共通項だったと思う。
- ・時代の進捗が非常に速いので、是非丘珠空港の利活用の案というのを早く決めて頂きたい。

- ・栄町駅からのロープウェイ型のモノレール等、賛同してくださっている方もいる。いずれ、地元としては空港の事だけではなく周辺のまちづくりも含めた意見書というの出さなければいけないと思っている。
- ・丘珠空港というのは、やはり札幌にとっても、北海道にとっても貴重な財産であると捉えるべきであり、今後どうしていくかある程度方向性をきちっと出していく必要がある。
- ・利活用の検討は時間を区切って考えていかないと絵に描いた餅になりかねないという事を、新千歳空港のコンセプションが進んでいること、今の航空需要をどう捉えるかということ等、様々な視点からそういう事があると、改めて考えていかなくてはいけない。

(2) 利活用検討に関する助言について

●事務局からの報告

(札幌市より資料2「丘珠空港の利活用検討に関する論点等について（第2回会議での意見）」、資料3「平成30年度丘珠空港利活用検討関係者会議において頂いた助言内容の整理（案）」を説明)

○委員からの意見

<利活用検討に関する助言について>

- ・この後の進捗が確認できる仕組みが必要。特に時間軸として、短期的にやるもの、この範囲が広がること、スピードアップすることが望ましいので、そういった進捗がわかりやすく開示されると良い。
- ・道内の空港の民間委託の話は一つ大きな契機・転機になる可能性があるため、その運営者が決まった段階で協議を行い、軌道修正する必要がある場合は工夫も必要である。
- ・短期的に実施可能な利活用策への取り組みで、この進捗管理をしっかりと、そこに運用時間延長についてもキーワードとして入れて頂きたい。
- ・現実に運用時間の話は、短期的な課題に入れるメルクマールで言うと微妙な感じがする。別に早期解決を必要ないという意味ではないが、少しハードルが高い議論になる。どこまでを実施可能としてどんどん進めるかという議論の中にぱっと入ってくる話ではないと思うが、短期的なところで、どこまで対応できるか当然配慮頂くという趣旨はすごく重要なので、そのあたりはまた事務局と調整をしたい。
- ・今年の7月に決まるであろう新千歳空港を含めた7空港一体民営化等の提案内容によって、またこれからの位置付けも変わる可能性があるため、ここのリンクはしっ

かり今後も続けて頂きたいし、我々も聞く場があればぜひ参加していきたい。

- もう少し強調するところを強調してもいい。
- 民間が前向きに捉える案件なんだという、そのタイミングをもっと強調して、計画、ビジョンを作るのと同時並行に民間の今の力を借りて一歩前に行動するんだという、そこをもっと強調した方が、この意図が伝わるんじゃないか。民間の力と官の力をうまくパートナーシップを組んで、同時的にやるべき時代であり、この地域に関しては、民間の行動というのが先に出てきている、それをうまく捉えた方が良い。これは、助言の一番上の部分に入れて考えるべきこと。
- ちょっと抜けている部分が技術革新。最先端の科学技術を使ってやるぞというのも、ある意味ではすごいビジネスとして起きてきているので、表に出すような項目じゃないが、どこかに意識して書いておくべきだろう。今の時代は多様な人の意見を取り入れて参加させるということと、最先端のびっくりするような技術革新を制度的に受け入れる、この二つだろう。
- 書類内容はコンパクトにまとまっていると思うが、もうちょっとはつきり打ち出したほうがいい。
- 滑走路を延伸するための理由付けとしては、観光客。路線の問題だ。そのためにもまとめが必要だと。よって滑走路延伸が必要だという論法でいくべき。その辺をもうちょっと明確に打ち出し、早くきちっとした年数を区切って目標設定した方がいい。そのためには、我々地元としても、話し合いの用意はあるので、早くそこどころ明確に打ち出した方がいい。
- 丘珠空港の特色、丘珠空港に何を期待するかというのは、アンケート調査で出ている。防災だとか、医療だとか、そういったものを強調しながら、空港延伸のベースになるもの、それがステップを踏んでいくときに大事になってくる。この辺のところも、入れることは可能ではないか。
- 滑走路延伸のことについて地元なり市民の意見をどう踏まえて、そのことの方角付けをするかというようなことを睨んでの提言、助言でなくてはいけないという認識を割と強く持っていたが、この委員会として、少なくとも延伸の必要性について、一定の認識を共通に持つことができたことについては、事務局とも相談して、皆さんの異論が無ければ、どう盛り込むかというところを相談する必要があると、今日の皆さんの意見を頂いた範囲としては認識している。
- あくまで委員会としての延伸の必要性ということに関しては一定の理解が、共通認識があったということで、当然今後については、地元や市民の意見を踏まえながら、

意思決定をして頂くということなので、手順、手続は何も変わるものではないが、むしろここまで委員から意見を頂くと、そういうような整理をした方が、この委員会としては、このことの整理をしたようなことになると思う。

- ・一応今年度どこまで議論を進めたかということと言うと、従来よりは延伸についても一歩理解、認識を深めたということは、現実の議論としては明らかに言えることなので、助言というようなことで、最低限表しておいて、次に繋いでもらうということは、この意見の流れから言うと、妥当な路線かなと議論を伺って考えたところ。

<利活用の在り方等について>

- ・短期的なものは我々もどんどん出来る限りしっかりやっていきたいと思っている。また、地域の方の声を聞きながらまちづくりも含めて空港運営が出来ていければと思う。
- ・札幌市の方を中心に、この空港がいいよねと言ってもらうにはたくさんの路線が必要だと思っている。もちろん道内を支える位置付けや道外からの誘客というところもあるが、たくさんの路線が飛べ、多様な機材が運航できるようになれば、もっと北海道の発展になるのではと思っている。
- ・日本はもう観光立国であり、この観光需要に乗るか乗らないかは、タイミングも含めてすごく大事なことで、コンセッションも含めて丘珠空港も何とか巻き込みたいと思っているが、1年遅れるとその可能性はどんどん減る。

○委員長より

<助言の取りまとめについて>

- ・時間の関係もあるので、事務局と私のほうで相談させて頂き、いただいたご意見で少し助言内容を修正し、まとめさせていただいてもよろしいか。

(全員了承)

- ・それでは、今日頂いた意見を反映させる形で、そこまで直らないと思うけれども、助言内容を示させていただく。

(3) その他

○委員より

<今後のスケジュールについて>

- ・この会議は助言を集めて役割が終わりかと思うが、その後どういうイメージで進めていくのか。今後色々なスケジュールを立てていくと思うが、わかっていることがあれば教えてほしい。

○札幌市からの回答

- ・詳細はまだ決まっていないが、来年度何らかの形で市民の皆様や有識者により会議体を作っていくことを予定している。今年度は住民説明会、アンケート、それからこの関係者会議で沢山意見をいただいているところだが、今年度の議論というのはどちらかというと、利活用の方策だとか市民への情報提供の手法といった一つのパーツみたいなものを議論していただいたと思っている。今後はどのような利活用が効果的なのかとか、どういった点に重点を置いた利活用を進めていくのかという事を市民の皆さんや有識者の方々と一緒に検討して行きたいと思っている。そのためには、どのような空港を目指していくのかという空港の方向付けが出来るような議論が必要だと思っており、その点も踏まえて我々の方で検討を進めていきたい。詳細については、8月頃に公表予定である道内7空港の運営の民間委託における、道内航空ネットワークの充実に関する提案の概要というのを横睨みしながら詰めていきたい。

3. 閉会

(1) 挨拶

(札幌市より挨拶)

以上